

成績評価を伴う遂行随伴報酬が内発的動機づけに与える影響

梅本 祥央

内発的動機づけの研究は、動機づけを下げる要因の研究から方針転換し、どのような因子が内発的動機づけを高めるかということに関する研究がなされるようになった。実験心理学的研究においては有能感や自律性といった物事の達成に関わる因子の関与が報告された。また、近年神経心理学の発展によって報酬の期待値を計算した結果である「報酬の予期」が報酬系の活動に影響していることが示唆され、内発的動機づけへの関与を検討する必要が生じた。

本研究では、実験参加者の課題成績に随伴して渡される報酬が、成績自己評価や有能感といった認知的因子を仲介して内発的動機づけを高める働きを持つかどうかを検討した。その際、「報酬の予期」は遂行随伴報酬を渡される課題において、成績の期待値として捉えられると仮定した。この時、成績の期待値は練習と本番のそれぞれの有能感を結ぶ因子として抽出されるという仮説を立てた。

本研究の実験は練習試行と試験試行の2段階に分けて行われた。また、実験参加者は報酬を与えられる群と与えられない群に分けられ、報酬を与えられる群には課題成績に応じてカジノチップが代用貨幣「トークン」として与えられた。練習試行では、各実験参加者は難易度と報酬が段階的に上昇する3問の間違い探し課題を全ての間違いを見つけるまで行った。試験試行では、実験参加者は5分間の制限時間内に8問の間違い探し課題に回答した。実験参加者は課題の成績に応じて上位群と下位群に事後的に分けられ、実験参加者が当てはまる成績群と実験参加者全体の成績の分布がフィードバックされた。その際、事前調査に基づき、成績群は課題の間違い全体の個数の2/3より多く見つけられたかどうかを基準に分けられた。また、実験参加者全体の成績分布は、実験参加者の成績に対する印象を強めるため、上位群には実際より悪い成績分布を、下位群には実際より良い成績分布をフィードバックした。各試行の終わりに質問紙によって課題興味(内発的動機づけ)、成績自己評価、有能感、自律性が測定された。練習試行ではそれに加えて成績の予想が行われた。

結果として、試験試行において、報酬なし群の内発的動機づけは上位群が下位群に比べて有意に高いが、報酬あり群では成績による有意な差が見られなかった。また、上位群において、内発的動機づけは報酬あり群が報酬なし群に比べて有意に低かった。一方で、報酬による低減効果は有能感や自律性には見られず、自己決定理論などで主張される因子以外に課題興味に対して影響を及ぼしている因子の存在が予見された。特に、課題の成績の自己評価は内発的動機づけとの関係が非線形的であり、今後の分析の必要性が示唆された。練習試行の各因子に関する分散分析の結果、内発的動機づけや自律性に対する報酬の主効果は有意とならなかったが、有能感や成績の自己評価は報酬ありの群が有意に高かった。

また、因子間の関係をパス解析した。結果として、練習試行の報酬が練習試行において有能感や課題成績の自己評価を高め、そのことによって練習試行の内発的動機づけや試験試行における成績の予想値が間接的に向上する効果が抽出された。さらに、この成績の予想値の向上は、試験試行の有能感や試験試行の内発的動機づけを間接的に高めていた。このことから、成績に随伴した報酬が前もって十分渡された時、報酬は自らが収める成績とそれに伴い受け取ることができる報酬の期待値を向上し、内発的動機づけも高める効果が示唆された。また、これによって、神経科学的研究で報告された「報酬の予期」という因子が内発的動機づけに関与しているという仮説が支持された。(基礎心理学)